

国際的な社会的連帯経済運動から見た
GSEF2016の意義

研究開発推進員
アジア太平洋経済センター (PARC)
事務局員 田中 誠

国際的な社会的連帯経済運動の隆盛

- ▶ 社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)が「今のようでない、もう一つの世界」の実現を目指す運動として1997年に最初の国際会議を開く(リマ会合)
- ▶ 以降、ケベック、ダカール、ルクセンブルク、マニラと会合を重ね、「社会的連帯経済のビジョン」を策定
- ▶ 70ヶ国以上の国内ネットワークと30以上の国際ネットワークが参加
- ▶ 「実践」と「変革」の両輪を軸に活動を展開

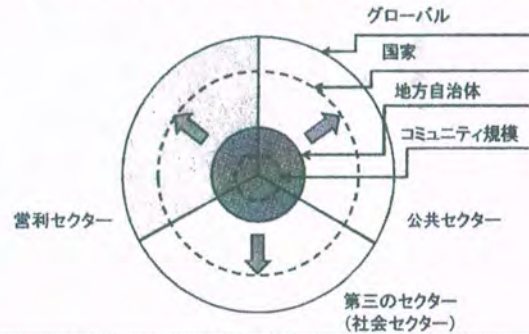
世界中の取り組みが結集中

「社会的連帯経済」の運動は セクター運動なのか？

- ▶ 営利、公共に次ぐ第三のセクターを充実させる運動なのか？

「社会的連帯経済」は社会を変革する運動

- ▶ 地域・コミュニティ単位の小な実践からグローバルなスケールへと広げていくことで変革を実現する運動



「社会的連帯経済」の目指すところ

- ▶ 企業・政府・NPO/NGO、協同組合や社会運動をそれぞれに変革し、今までのようでない、もう一つの世界のあり方を実現するのが「社会的連帯経済」の運動の目指すところ
- ▶ 企業・政府へのオルタナティブとしてNPO/NGOや協同組合の活動を推進する運動とは異なる

GSEFの「社会的経済」の位置づけを見てみると

- ▶ 2013-2014:
Social economy means 'activities of organizations which operate under the principles that regulate profit distribution based on the ownership of quotas of capital and democratic decision-making process.' (GSEF2013及び2014ウェブサイトより)
- ▶ 「社会的経済は資本の分担率と民主的意思決定プロセスに基づいて利益配分を規制する理念のもとに活動する組織の活動」(仮訳:田中 滋)

ソウル宣言 (2013) より

- ▶ "We may be able to overcome the current global crisis by harmonizing the social economy with the public sector and market economy" (ソウル宣言, 2013)
- ▶ 「現在のグローバルな危機は社会的経済を公共セクターそして市場経済と調和させることで乗り越えることができるかも知れない」(仮訳:田中滋)

GSEF2013-2016の変化とは

- ▶ 多様性の受容
 - ▶ 学術的な定義や韓国の国内法で使われる定義に限らず、多様な同種の活動を受容する幅が目に見えて広がっている
- ▶ セクター活動から社会全体の変革へ
 - ▶ 特定セクターの活動を促進するための政策協議ではなく、それらセクターが必要となる背景に狙いを定めた「開発モデル」へ変化

事例に求められる水準の高まり

- ▶ 「ある地域で協同組合が成功した・している」では次のGSEFには招かれない。
- ▶ 個々の好事例はもはや当たり前
- ▶ 協同組合やコミュニティビジネスで地域再生が実現したという成功事例はあふれている。条件を整えようまくいのはわかっている。
- ▶ 問題はその事例は「どのようにグローバルな社会システムを変革しているのか？ そこまでいなくても、どのように地域全体を変えているのか？」それが問われるフェーズへと来ている。
- ▶ 自分が成功した好条件を普遍化するために、仕組みに対して働き掛けるべきことは何か？

これからもPARCの 国際調査活動を支えてください

- ▶ 会員
 - ▶ 一般会員 12000円／年
 - ▶ 学生会員 8000円／年
- ▶ マンスリーサポーター
 - ▶ 月々1000円～ <PARCオンライン>からクレジットカードで申し込み可能
- ▶ 寄付
 - ▶ 1円からでも可。金額に迷ったら3000円～



〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町1-7-11
TEL:03-5209-3455 / FAX:03-5209-3453
alter@parc-jp.org
http://www.parc-jp.org/